

令和6年度第2回栗東市社会教育委員会議 会議録

日 時 令和7年1月31日(金)10:25~12:16
場 所 危機管理センター 大研修室
出 席 奥野委員長、山本委員、高野委員、三好委員、川村委員、寺田委員、西尾委員、川那邊委員、大屋委員、田中委員、飯村委員
欠 席 奥村副委員長、朽木委員、木村委員、大住委員

関係課・事務局出席

教育長、教育部長、少年センター所長、自然観察の森副所長、人権擁護課参事、スポーツ・文化振興課長、歴史民俗博物館長、図書館長
事務局：生涯学習課長・自然観察の森所長、社会教育指導員、生涯学習課員2名

1. 開会
2. 市民憲章唱和
3. あいさつ 奥野委員長・今井教育長
4. 案件

(1) 令和6年度栗東市社会教育関係事業実績報告について 資料1

進行：奥野委員長

資料1に沿って説明

生涯学習課	生涯学習推進事業、青少年教育推進事業、青少年対策（育成）事業
少年センター	非行防止・啓発事業の推進、非行少年対策事業の推進、広域犯罪への警戒と防止啓発、関係機関や団体との連携と協働
自然観察の森	各種イベントの実施、施設等の安全対策など、園・学校との連携及び諸団体への支援・協力、森のPR活動、再来園者を促す取組み
人権擁護課	地区別懇談会、人権啓発リーダー講座、人権・同和教育推進協議会、人権教育ネット協議会及び学区運営委員会、人権教育研究大会、小柿地域教育推進事業
スポーツ・文化振興課	文化財保護事業、埋蔵文化財調査事業、出土文化財センター管理運営事業、文化振興事業、音楽振興会活動・研修補助事業、芸術文化会館管理運営事業、スポーツ振興事業、生涯スポーツ振興事業、社会体育施設管理事業
歴史民俗博物館	展覧会開催事業、市民参画推進事業、博学連携事業、博物館施設の適正管理、他の関連施設との連携事業
図書館	図書館サービス事業、その他事業、重点事業

(委員長)

担当課から説明があった社会教育関係事業報告について、皆様からのご意見をいただきたい。

(委員)

22 ページ、自然観察の森について、自然に触れるということで非常によいと思っているが、少し残念と思うのが、CコースとかAコースとかコース別にしてあるが歩いていて少しわかりにくい部分がある。

40 分ぐらいで回れるとか、1 時間かかるとかは教えていただいているが、順序がわかりにくく、誰か一緒にないと難しいと思った。

そのあたりをわかりやすくなるようお願いしたい。

次に、30 ページの音楽振興会活動・研修補助事業について、歴史民俗博物館で開催される事業に喜んで参加させていただいている。

「RISS ミュージアムロビーコンサート」において、6 月のときは、非常に多くの方が参加されて、11 月のときには非常に少なかった。これは、宣伝や広報の影響なのか、それとも演奏者に問題があったのか、それとも何か特別なことがあったのか教えていただきたい。

歴史民俗博物館へはこういうときを利用して早めに着いて館内を見て回ったり、或いは済んでから回らせていただいたりするので、そういうものが 1 つきっかけになるので、何か問題があったのか教えていただきたい。

(自然観察の森)

所要時間については、インタープリターがいるのでカウンターでは丁寧に説明させていただいている。

見どころマップには園内の案内とコース取りがあるが、所要時間は、平均的な時間の関係もあるので、あえて今はうたっていないが丁寧に説明できるように検討していきたいと思っている。

個人で来られる利用者については、個人的に受け付けで説明させていただき、回っていただくが、団体で事前に連絡や予約をいただければ事前に丁寧な説明やガイド的なことも考えている。その辺については問い合わせさせていただきたい。

十分皆さんにわかりやすい案内ができるようにしていきたいと思っている。

(スポーツ・文化振興課)

歴史民俗博物館で実施をしているコンサートであるが、6 月に比べ 11 月は人数が減っているということであるが、6 月のときには 300 名近い来場者があり、危険な状態で消防法的にも違法的な状況であった。

このことにより、音楽振興会と協議する中で人数を絞ってもらいたいとのことで、100 名ぐらいを上限に実施していただき、施設の規模からしてもこれぐらいが適正な規模でないかと判断をさせていただく中で、色んな方策を考えていただいた。広報も少し控えていただいたところもあるし、事前申込制で、100 名超えたらお断りするということで方策を立てていただいた結果がこの人数である。私どもとしては、逆にこの 80 名程度が適正な規模であると判断しているところである。

(委員)

今後も人数制限が行われると理解すればよいのか。

(スポーツ・文化振興課)

2月にもう1回実施する予定であるが、同じく上限を100人ぐらいに設定し、実施することを予定している。

(委員)

来年以降もその規模からすれば100名以内だという考えでよいのか。

(スポーツ・文化振興課)

実は、コンサートを長年開催されているが、次が50回ということで、歴史民俗博物館の方とも共有する中で、会場の見直しを現在音楽振興会に提案しているところである。

まだ来年度の予定は決定していないが、歴史民俗博物館本来の活動に専念できるよう違う会場で実施をしていただくように提案している。

先ほど意見いただいたが、これをきっかけに歴史民俗博物館を知っていただくことも当然当初から目的としてはあったが、役目としては一定果たしたと判断をする中で、博物館の本来の展示に力点を置いて、今後展開していきたいと考えているところである。音楽振興会には、この50回を契機に会場について次年度以降は、他の場所の検討を現在投げかけし、協議しているところである。

(委員)

相乗効果はあまりなかったのか、それとも成果があったのでこれでよいという考えなのか。

(スポーツ・文化振興課)

そういった効果は一定ないことはないが、6月のときに300名近い方が来られた状況で、本来、展示を見学に来られる方が入れないということもあった。

その後、100名を上限とさせていただいているが、それでもやっぱり静かな環境で展示を見たいという方も当然おられる。

そういった中で、この11月のときにも、「今日こんなものやっているなら申し訳ないけど帰る」ということで、本来の博物館のお客さんにご迷惑をおかけしていることも事実としてあった。

今までいろいろ音楽振興会には貢献いただき、新たなお客や利用者に繋がっている部分は事実であるが、50回を契機に一定見直しをかけていただくということで、提案させていただいている。

(委員長)

ご理解をよろしくお願ひしたい。

(教育長)

委員が言われたように、何かをきっかけとして、歴史民俗博物館に足を運ぶとか或いは自然観察の森の方に足を運ぶといったところは非常にあるのではないかと考えている。

そういった意味で、今、音楽コンサートについては今のような方向であるが、それとはまた別に何かこう人が集まるようなことも企画しながら歴史民俗博物館、図書館、自然観察の森が一体となって何かできるような工夫をこれからは行っていく必要があるかなと感じている。そういったご意見もたくさんいただいている。

この3施設については栗東の静かな環境にあるところということもあって、1つの文化ゾーン的な扱いが位置付けできるのではないか。この3施設が合同でいろんなイベントであるとか、取り組みの開催であるとかの意見もいただいているので、今後ぜひ検討していきたいと考えているところである。

(委員長)

他に意見がないようでしたら。

(委員)

31ページの学校体育施設開放事業で、スポーツ、健康にすごく関心があって運動するというお子さんや高齢者の方もいっぱいいらっしゃると思う。

その中で、去年はすごく猛暑で体育館の中は非常に暑い。

その体育館の中の暑さを和らげるためと、防災にも関係あると思うが、課題のところでも「誰もが安心安全に利用できるように」と書かれているので、空調設備、エアコン、そのことについての考えを聞かせていただきたい。

(教育部長)

昨年度は、特に猛暑ということで、子どもの運動等にも問題があり、また、能登半島地震等もあって、避難所としての機能としても注目されているところである。

小中学校の体育館等については、今後空調設備を整備していくという方針で、来年度から検討していくことが決定しているところである。

(委員)

本当に地震もあったので、心配したところである。うちの避難場所も中学校、小学校なので、何かあったらどうなるのかという心配があって、今の返答で安心した。よろしくお願ひしたい。

(委員)

5ページ「放課後子ども教室」について、スポーツ推進委員という立場で1度だけ行ったことがあり、小学生は皆元気で活発だなと感じた。ここの課題として、子どもは元気だけとお世話するスタッフが高齢化していて大変だと実感した。私が思ったのは、近くの大学生の方に年間通じて来ていただいて、地域の高齢の方と大学生が一緒になって、子どもたちのお世話をするというようなことを考えてみてもいいのかなと実際に行ってみて感じたところである。

もう1点は、来年度に国スポ・障スポが開催されるが、この社会教育という形で委員長がおっしゃった繋がりについて、きっかけづくりをやっていく上では国スポ・障スポも1つの大きなツールだと思っている。

各事業の中でどのような形で国スポ・障スポと関わっていかれるのかというところを来年度の活動方針の中にぜひ入れていただきたいという2点である。よろしくお願ひしたい。

(生涯学習課)

放課後子ども教室の関係であるが、非常にたくさんの応募があり、子どもたちは元気にその場の中で活動されている。確かにボランティアは高齢化していて割と限られた中でやっていたのが現状である。

提案いただいた大学生という部分であるが、市では龍谷大学と包括連携協定を締結していて、提案にあった「大学生を交えた放課後子ども教室のサポーターでの活用」のようなことを検討していたことがある。

学部の授業の一環に位置づけるであるとか、大学との調整も必要であるのでいただいたご意見を参考にさせていただきながら、具体的な形が実現できるのかどうかという部分も踏まえて今後の検討材料とさせていただければと考えているところであるのでよろしくお願ひしたい。

(教育部長)

来年度に国スポ・障スポを開催することは皆様ご存じであると思うが、今年度に関しても、プレ事業や、様々なイベントのところで紹介ブースなどを出させていたが、

来年度はもう開催である。紹介はもちろんのこといろんなイベントで、協賛、協働でやっていくであるとか、いろんな関係団体や企業などにもご協力を求めて盛り上げていこうということであるので、来年度はこちらの社会教育事業だけでなく、様々なところで連携して、成功というか、盛り上げて、それが、皆さん市民の今後のスポーツを見るだけでなく、また自分からやっていく、そういった方に広めていきたいと考えているところであるのでよろしくお願ひしたい。

(スポーツ・文化振興課)

国スポ・障スポとの関係であるが、スポーツ・文化振興課としても、これを契機に始まったレスリング教室やゴルフ教育など子どもたちを対象に実施しているところである。

そういったものは、今後も引き続き続けていけるように努力していきたいと思っているのでよろしくお願ひしたい。

(委員)

5 ページ放課後子ども教室に関連して、毎回(葉山を除く)という文面が非常に心苦しく感じていたところであるので、現在の葉山学区の経過を少し報告させていただきたい。

コロナのころから夏休みにおいて3回、子ども教室「はやまっこ広場」を民生委員さん主体で、開催しており、それが非常に好評で、学区の推進員に協力いただき、盛会に開催していたこともあって、その延長上として放課後子ども教室の方をこれから進めていこうとしている段階である。

予定というか希望としては、今年、来年度の夏休みの子ども教室を終えたあと、それを受けた形で、夏の猛暑終わった時点の秋ぐらいから施行したいと動き始めているところである。

正式には再来年度に、他の学区を参考に、また、生涯学習課の支援を受けながら葉山学区の方でも始められたらいいなというところで、非常にゆっくりとした歩みではあるが、始めていこうかという

ことでここで報告させていただく。

あと1点、市内3中学生の学習の支援に少しかかわっていて、学習の支援というよりは、家庭に問題や課題があったり、経済的な問題を抱えているお子さんが、学校帰りに来て学習をして、一緒に食事を取って、あといろんなおしゃべりをして、レクリエーションしたり、学習したりして、夜帰っていくというのを各中学校から来ておられる。受験生になってくると、夏休みとかで、家庭で落ち着いた学習環境が整っていないその子たちが、「どこかで勉強する場所がない？」という声を聞くことがある。「図書館に行こう」と誘うが、図書館は学習したらだめと言われたことがあって今回「学BASE（まなベース）」の設立ということで、子どもたちを誘いやすくなって喜んでいるところである。

もう1つは図書館が使えなかったときに、コミセン週に1回でもいいから中学生に開放してもらえないかとお願いをしたこともあるが、見守りの大人の問題があって、その時は叶わなかった。コミセンだと子どもたちも身近な場所でもあるので、何か開放できる学習の場所の提供ができたらと感じた。

（委員長）

本当に貴重なご意見、ありがたい。

（大屋委員）

同じく5ページであるが、「もくもく会」の活動終了とある。今まで27年間ずっと続けてこられたのが、活動が終了になるということであれば、バトンタッチしてするような団体がもう見つまっているのか、もうこれが全部なくなってしまったら、今までやってきた行事のところに空白ができる。それに関しては何か対策というか、どなたかボランティアグループだけでなくもよいが、「こういうことをやろう」みたいな提案をすでに受けているのか。

（生涯学習課）

社会教育ボランティアとの連携事業ということで、先ほど説明させていただいた。

もくもく会は27年間活動されたが、高齢化、メンバーの減少ということで、今年度をもって活動を終了される。

ただその事業の、この社会教育ボランティアという活動の中では、特に市内では「もくもく会」が中心になっていただいていた部分であるので、現状としては後継団体、後継グループ、後継者的なもの、現状としては存在していない。

ただ高齢の方で、こういうことやりたいという形の思いで、これまで続けてこられた方々であるので、今後においては、生涯学習課の方で実施をしている「はつらつ教養大学」などでこの学びを深めていただく中で、活力のある方が1つの団体を立ち上げるであるとか繋がりをしていけるよう支援をしていければなというふうに考えているところである。

（委員長）

他に意見がないようであれば、これをもって報告の承認とさせていただきたい。

では承認とさせていただく。

以上をもって、第2回の社会教育委員会議を終わらせていただく。

皆様のご協力により議事が円滑に進行いたしました。本当にありがとうございます。

(事務局)

その他

- 生涯学習まちづくり講座のお知らせ
- 栗東の文化財を活用しようVI講演会のお知らせ

5. 閉会あいさつ 教育部長